

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために
Serve to Change Lives

2021-22年度 RI会長/シェカール・メータ
RI.D2590ガバナー/小倉 正
横浜旭RC会長/北澤 正浩

国際ロータリー第2590地区

横浜旭ロータリークラブ

事務所 横浜市旭区二俣川1-37-3 NUTS1階/〒241-0821
TEL.045-465-6702/FAX.045-465-6712
http://yokohamaasahirc.cho88.com
Email: asahirc@titan.ocn.ne.jp
例会場 横浜市旭区二俣川1-45-30工藤ビル
(株岡田屋3階会議室)
例会日 毎週水曜日/12時30分～1時30分



横浜西部病院へフェイスシールド寄贈

横浜市へ医療機器支援

旭ふれあい区民まつり

2021年11月10日 第2443回例会 VOL. 53 No. 5

- 司会 副SAA 岡田 隆
- 開会点鐘 会長 北澤 正浩
- 出席報告

会員数	22名	本日の出席数	15名
本日の出席率	75%	修正出席率	100%

■本日の欠席者

安藤、宋、中谷、福村

■ゲスト

橋本 徹 様 (横浜市 国際局長)
石尾正大 様 (神奈川新聞社 報道部記者)
大元麻美 様 (カトリック新聞社 記者)
寺岡洋子様 (兵藤会員ご友人)



■誕生日祝

内田 敏 会員 8.9
新川 尚 会員 10.5

◀寺岡洋子様
以前クラブ会報の編集で
お世話になりました。

■会長報告 北澤 正浩

新型コロナウイルス感染症に伴い、昨年12月から継続してきた特措法に基づく時短要請などが10月24日をもって解除されてからしばらく経ちました。街中にも人が多くなり、特に夜の飲食店は、以前の活気が戻ったような気がします。

当クラブも通常の運営に戻す時期ですが、前回の例会で皆様のご意見をいただきましたので、現在、理事会メンバーとも協議しております。会場の確保・食事の手配・予算等の調整が必要な為、もうしばらくお待ちください。同時に昨年開催を断念したクリスマス例会についても検討を進めております。

さて、11月は、ロータリー財団月間です。ロータリー財団は、国際ロータリーによって1917年に基金として設立され、1983年に非営利法人となったもので、100年以上の歴史があります。人びとの健康状態を改善し、質の高い教育を提供し、環境保全に取り組み、貧困をなくすことを通じて、世界理解、親善、平和を構築することを目的とし、当クラブでも財団の補助金により様々な活動をしてまいりました。今後も当クラブが財団の補助金を有効に使っていくためには、会員皆様の寄付が必要となりますので引き続きご協力をお願いいたします。

本日のロータリー財団フォーラムは横浜市国際局長の橋本徹様にお越しいただき卓話をお願い

いいいたしました。日本随一の国際都市である横浜は、世界各国との結びつきが強い都市でもあり、市政に関しても国際事業を戦略的に進めておられるそうです。今回は「横浜市の国際政策について」詳しくお話ししていただきますので楽しみにしております。

【報告事項】

10月27日に目黒会員が入院したとの知らせを受け、市川幹事とご自宅へお見舞に伺いました。お会いしたところとても元気で、皆様によるしくお伝えくださいとのことです。

クラブよりお見舞金をお渡ししました。

■幹事報告 市川 慎二

1) 例会臨時変更のお知らせ

○横浜瀬谷ロータリークラブ

日時 11月26日(金) ⇒ 27日(土)地区大会

日時 12月17日(金) クリスマス家族例会(場所未定)
31日(金) 休会

○新横浜ロータリークラブ

日時 11月26日(金) ⇒ 27日(土)地区大会

日時 12月3日(金) 通常例会

日時 12月10日(金) ⇒ 9日(木)

クリスマス家族例会(新横浜国際ホテル)

○横浜田園ロータリークラブ

日時 11月30日(火) ⇒ 27日(土)地区大会

○横浜港南台ロータリークラブ

日時 11月26日(金) ⇒ 27日(土)地区大会

日時 12月10日(金) 年末家族会

(北京飯店 18:30点鐘)

■会員増強委員会 関口 友宏

8月は会員増強月間で、「若い世代と女性会員を増やすには」をテーマに、フォーラムを予定していましたが、休会のため中止になりました。

「今、コロナ禍で会員増強どころではない」と思われている会員が多いと思いますが、このまま推移すると先行きが心配でなりません。

地区の状況も1994年度末3,155名に対し、2021年3月末1,961名、38%もの減少になっており、コロナの影響による会員減少が、後を絶たない様です。

当クラブを見ますと、1991年～92年度、故北沢通正会長年度の66名が最高、本年度は22名でのスタートになっており、寂しい限りです。

クラブの運営基盤を維持し、長期安定を図る

には、若い世代と女性会員の入会が必要です。その為には、既成概念に囚われない見直しが必要かもしれません。

私見ですが、若い世代や女性を巻き込んだ活動を考え、ロータリーをもっと知り、親近感を持って貰うことも必要ではないでしょうか。

本日、「ロータリーの案内」と「入会申込書」を配布しますので、本年度会長目標・純増2名達成に、ご協力をお願いする次第です。

■ニコニコBOX(会員敬称略)

二宮 登/橋本徹国際局長ようこそいらっしゃいました。本日の卓話楽しみにしています。神奈川新聞社石尾正大様。大元麻美様本日の取材よろしくお願ひします。

北澤 正浩/横浜市国際局橋本徹様本日は卓話をよろしくお願ひいたします。大元様、石尾様寺岡様ようこそいらっしゃいました。

二宮麻理子/橋本様本日はよろしくお願ひいたします。

兵藤 哲夫/古川なおきさん、ご支援ありがとうございました。おかげさまで当選いたしました。今日は初の国会へ出席しています。

寺岡洋子様ようこそ。

新川 尚/橋本横浜国際局長、本日は宜しくお願ひします。

市川 慎二/横浜国際局長橋本徹様、本日はお越し下さり、ありがとうございます。卓話宜しくお願ひ致します。石尾様大元様をお迎えして。

岡田 隆/橋本様本日のフォーラムよろしくお願ひ致します。

佐藤 真吾/横浜国際局長橋本徹様、本日はお忙しいところ、当クラブ例会にお越し下さり有り難うございます。卓話宜しくお願ひ致します。

佐藤 利明/橋本様(横浜国際局長)をゲストスピーカーにお招きいたしまして、よろしく、並びに石尾様大元様寺岡様ようこそ。

五十嵐 正/横浜国際局長橋本徹様、本日の卓話楽しみにしております。宜しくお願ひします。

田川 富男/橋本様ご多忙の中例会にて卓話をいただきまして、ありがとうございます。

内田 敏/橋本徹様本日はお忙しい所卓話に来て頂きありがとうございます。

関口 友宏/橋本局長をお迎えして。

寺岡さん、ようこそ。懐かしいですね!

■魅力あふれ、選ばれ続ける都市「横浜」の実現に向けて

横浜市国際局長 橋本徹様

紹介／1963年1月3日生 栄光学園卒業

1986年 東京大学工学部都市工学科

1987年 アジア工科大学院 @Thailand
(ロータリー財団奨学金)

1989年 国連アジア太平洋経済社会委員会
@ Bangkok

1991年 マサチューセッツ工科大学院
@ Cambridge, MA

1994年 世界銀行 (ガーナ、東南アジアインフラ)
(マニラ駐在含む)

2004年 アジア開発銀行研究所 (ハノイ駐在)

2008年 横浜市 共創推進事業本部

2021年 横浜市国際局長

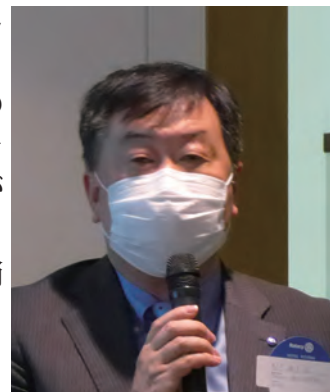
魅力あふれ、選ばれ続ける都市「横浜」の実現に向けてということで、国際局というのがあって、政令市の中で横浜だけです。というのは国際を担当する部署というのがあってある市はありますが、局というのは、ある意味、例えば横浜ですと健康福祉局ですとか環境創造局、道路局、局というのが幾つあり、区は18ですけれども局は20位です。、その中で国際を担当する局と謳っているのは横浜だけです。

横浜というのは釈迦に説法でございますが、開港から近年で言いますとワールドカップ、この近くの国際競技場で決勝戦を行いました、ということで非常に海外とのつながりの中で発展してきた都市であります。また、みなとみらいの方ですと会議場のパシフィコなども非常に大きいですし、アフリカなどの国際会議もやっている都市であります。

ひとつ時代の認識として、日本、あるいは都市になればなるほど高齢化ということが非常に大きな問題になる中で、いわゆる少子化というのが変わってくるというのはないと思います。ですから今後どのような形で人口のバランス、いわゆる稼ぐ世界といたたらんですが、労働生産年齢の部分はどう補強していくかということ、どうしても海外の人と国にお頼りにする部分が大きくなっていく。そして世界を見ても、都市化というのは非常に進んでいるんです。アジアなどでも農村部分が多かったのが、都市に人が集まってきて、更にいうと例えばアジアなども経済力もものすごく、中国は言うに及ばず

ASEANも急成長をしている。

もう一つの時代の認識は、丁度今グラスゴーでCOP26がやっておりますが、都市のエネルギー消費・温暖化に対するCO2の排出量などは、逆に都市は機会を生



むけれども、様々な地球規模の課題も生んでしまっている。そういうところで都市というものがお互い結びつくことでいろいろ解決できることがあるのです。

もうひとつは、失われた30年ということで、ビックマック指数というのがあります。ビックマックの価格で日本だと大体300円位なんです、アメリカは5ドル以上するそうです。ですから、1ドル110円で換算すると日本の約2倍、比較するとマイナス40%ぐらい価格が下だそうです。実は韓国の方がビックマックが高いんですね。中国ももうそろそろ抜いちゃうということで、日本よりビックマック安い所はあんまりないみたいですね。

そういう意味でいうと、賃金のレベルは、ここ30年間日本の場合ほとんど上がってきません。一方でアメリカを含めて他の国というのはだいたい2倍近く上昇しています。そういうことでいうと、今の私共の持っている円の力というのは、1970年位と同じように戻ってしまったんだそうです。1970年という私は小学校1年生でしたけど、海外へ行くなんてもう夢のまた夢で、段々日本というのが世界の中で貧しい国になる可能性が今出てきています。

ここは分配をしながら成長する、難しいですけども逆転していかなくちゃいけないので、そういう意味での横浜として何が出来るかということを考えているのは私共国際局です。

次に横浜は色々な都市のネットワークに呼ばれます。

例えばC40(世界大都市気候先導グループ)、これは温暖化気候変動のネットワークです。さらには昨年G7がイギリスで行われた時に、その都市版のU7という会議がございました。これはオンラインの会議で大きな会議ではないで

すが、そこに呼ばれたらもう横浜が日本の政令市の代表ということで動いております。あるいは、例えば大阪で行われたG20ですけども、そのスマートシティ、新しいデジタル化・環境に配慮した都市づくりをするような連合の設立会合が2019年に横浜で開かれたりしております。

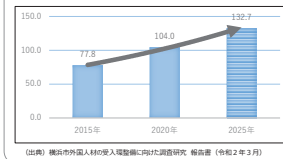
あとは横浜という街をどう見るかですけども、第一に、やはり人口が外国人の方に非常に好まれてきて、10万人を突破いたしました。人口が377万位ですのでその内の10万は多いか少ないかですけども、外国人数が伸びる街、大都市ではまだ横浜はかなり伸びが大きいです。横浜を選んで住んでいただいた方が多いので、そういう方々と今後どう向き合っていくか。あと、これは横浜に特異な現象ですが、東京を除いてということですけども、外資系の企業が立地先として選んだのは東京か横浜、他の都市圏だと大阪とあるいは名古屋などがあがりますが、他の都市はあまり伸びてない中、横浜はかなり伸びています。横浜が東京の首都圏であるという事もひとつの大きな理由かもしれませんが、様々な大企業、あるいはスタートアップの新しい企業なども横浜を選んで立地しているというような状況もあります。

それから国際機関も多くて、パシフィコの中に国際協力センターというのがありますが、その中に入居している国際機関として有名なものが、例えばWFP（ワールドフードプログラム）というのがございます。これは食料が足りない国に、食料を持って行って、実際に配る組織ですが、昨年ノーベル平和賞を受賞しました。このような組織も横浜を選んでくれる。更にはインターナショナルスクール、旭区は分かりませんが、例えば緑区ですとインドと関係がある学校。ドイツの学校ということで、インターナショナルスクールが多いというのが横浜市の特徴でございます。

そういう中での国際局ですが、私共はどういうことをしているかということ、外国との付き合いは多いです。例えば大使の表敬も多です

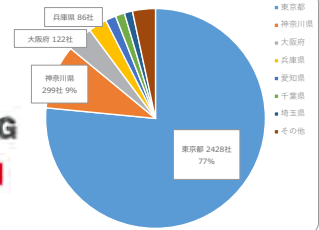
選ばれ続ける国際都市・横浜

外国人人口：
全国第2位の10万1,614人
(1位：大阪市(約14.3万人))



横浜に立地する外資系企業：
全国第4位の215社

市内に立地する主な外資系企業



市内の国際機関：7機関 (国際協力センターに同居)



市内のインターナショナルスクール：8校



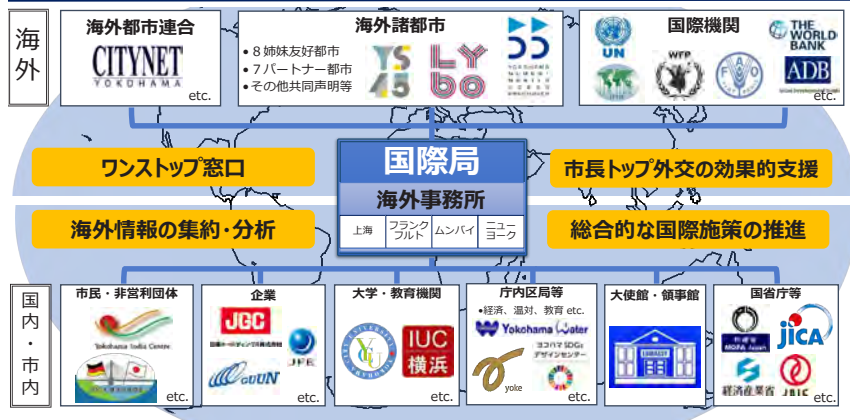
し、かつては横浜から様々な国の通商関係も始まりました。アメリカ、イギリス、フランスあとドイツの方が横浜から日本との関係はスタートしたというふうに仰って下さいます。そういう意味で様々な外国から問い合わせが来ます。

これのワンストップ窓口はどうして重要かといえば、例えば、ゴミのチームだとゴミの問題を相談しようという問合せが来たとする、それでゴミの問題があまり重要じゃないところから問い合わせが来ても切ってしまうのです。つまり、その関係性があまり深まらない、でも、ゴミの関係だけじゃなくて実はその横にある、例えばプラスチックの関係のリサイクルのところで、実はその国と結びたかったケースが意外とあつたりします。ですから私共はなるべく様々な部局、庁内の局を束ねながら、海外との関係については一つの窓口で情報の集約や分析もしながら結びついていこうとしています。

もう一つはやはり最近の傾向として、都市の首長が国のトップになるケースが意外とあります。一番有名なところは、イギリスの首相もそうですね、ロンドンの市長からイギリスの首相になられた。後はフィリピン、まさにダバオの市長ですね、ドゥテルテさんが大統領になられた。それからインドネシアのジャカルタのトップの方が首相になる、ということで市長というのが国際的なネットワークの中で重要な人物人材として認識されているという状況があります。例えば今度アメリカの大使としておそらく来ることになる方もシカゴの市長でした。

ですから国を治めるということかというと、国全体でございますけれども、もう一つの都市を経営するというのも、そういう意味でいうと国

国際事業のトータルコーディネーターとしての国際局



際的な関係ということが非常に重要視されております。先ほど言いました、温暖化のネットワークC40というのは国のネットワークではなくて、都市がそういうことの問題を解決するようなネットワークも立ち上がっていますので、市長あるいは副市長も居ますけれども、様々な国際会議に出ていく、あるいはネットワークに対して発信するようことも効果的に支援するという流れです。ですから総合的な国際事業構築、様々なピースを組み合わせて、それを総合的に横浜の都市力として発信していく事も国際局の重要な仕事としてやっています。

また横浜として少しユニークなのは、今後どうしていくか議論にはなっていますが、海外事務所の資産を持っています。ニューヨーク・フランクフルト・上海それからインドの事務所。ここは今ちょっと閉めています、というのはインドもコロナが大変厳しくて、医療関係もあまり良くなかったのが引き上げました。今後この事務所をインドに戻すのか、あるいはタイとかASEANの方に持って行くのか今議論しておりますが、海外事務所でも自分たちの職員を貼り付けて活動しています。

それ以外には国際機関、実際に横浜に居られる国際機関もありますし、あるいは先ほど私が以前所属していました、世界銀行とかADBとも連携関係を持って、様々なプロジェクトを進めていたりします。国の方では特にJICA（国際協力機構）、そういう方々との繋がりも深いです。あとは企業の方も活動してまして、これらを総合的に調整するのが私共の役割であると考えています。

ここから具体的な取り組みをいくつか紹介し

たいと思います。私共で一番大切だと思っているのは、先ほど申し上げたように外国人の方が増えていまして、旭区にはまだないと思いますが、国際交流ラウンジ、今市内11カ所で設置をいたしましたので、横浜とはやはりそういう街だなと思うのは、その運営に加わっていただいている人達のボランティアとかNPOの方が多く非常に多くございまして、504団体参加

してもらっています。ですからいわゆるラウンジの機能としては情報提供、それから困り事の相談、特にコロナの間にビザが取れないとか、帰国も難しいとかいろいろな相談がございますし、あとはやさしい日本語をまず学習しよう、それから国際交流ということで外国人の方だけにサービス提供してもいけないと思っております、まさにロータリークラブでやっておられるように国際的な交流をして、お互いの理解を深めていこうという事もラウンジを中心に行っているところでございます。

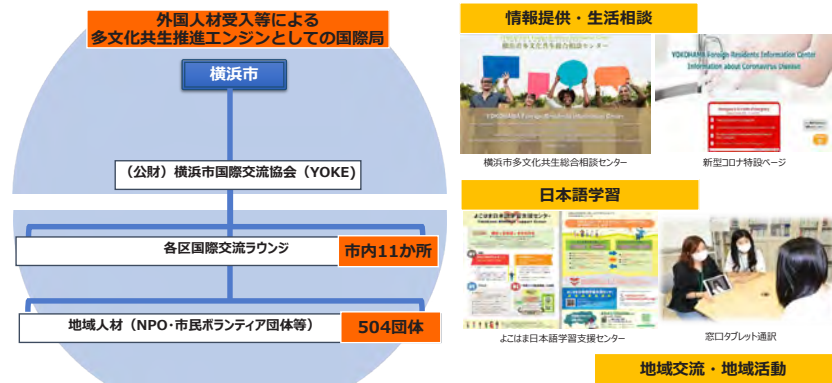
その中心となっているのは国際交流協会(YOKE)。そこで全体として取りまとめしながら進めておりまして、山中市長も多文化共生というのを一つ公約として進めていこうと打ち出しておりますので、今後私共も強化していきたいと思っております。それには外国人の方が問題なく住んでいただくことが重要だと思います。一方で、横浜の住民、日本側というか横浜の日本人の住民も国際都市で外国人が増えることに対してポジティブになって考えてもらわなくちゃいけない、またはポジティブに考えられる環境を作れるかなと思っています。これは簡単ではないと思っております、私自身アメリカでずっと13年、小学校の時から子育てをしました。やはり中学高校ぐらい入ってくると、如実にグルーピングがありますね。ですから、アジア系の人達、日本人だけで固まるということではないのですが、アジア系の人達のグルーピングというのは向こうの高校で出ると、日本語でいう学校カーストという言葉があるのでしょうか、あまり良い言葉ではないですけどクラスの中に階層みたいなのできてきて、アメリカでも白人の

多文化共生社会の実現に向けた多様なサービスの提供

グループがそういうトップグループでもあったり、ですから中々いろいろな民族が混じり合って住むというのが、ワシントンに居たのでそれこそ国際的な街だと思いますけどそこでも難しい。

一方で私もフィリピン・バンコクにも居りました。それぞれの日本人に対してポジティブな見方・ネガティブな見方がありまして、これは二宮先輩の前では本当に申し訳ないですけども、釈迦に説法ですが、フィリピンの方々からは第二次世界大戦の時の話もよくされました。私の親の世代がどれだけ日本人に苦しめられたか知ってるかという話、世界銀行で仕事している時よく言われました。その中で私の上の娘はフィリピン人と結婚しまして、それは、私自身はいい結婚をしたので嬉しいですけども、それで国籍関係なく関係ができるというのは素晴らしい事だなと思います。そうすると日本人の方が外国人の方々がいることが問題にならないためにはどうしたいのか。これは解決策の一つではありませんが、両面、こちら側の横浜に来る外国人に対するサービス提供、それから横浜というものがそういう方々を受け入れることによって多様性のある、より良い街になるためにはどうしたらいいのかというのを、今後もっともって考えていかなきゃいけないかなというふうに思います。

もうひとつ、これは具体的の話で、横浜はアフリカとのつながりも非常に強いです。これは東京アフリカ開発会議（TICAD）、これが何年かに一度、例えば2017年横浜で行われたときに交流があるとか、昨今だとオリパラがありまして、そのホストタウンとしても横浜を選んで頂きました。チュニジアあるいはボツワナという国です。もちろんコロナの時代ですから中々交流できなかったのですが、例えばボツワナの方々も陸上400×400の1600mリレーで銅メダルをとりました。メダルを持ってきてくれて、それは子ども達と少し交流ができたんですが、実際に子ども達とその国の陸上選手の方々の走る姿とか、メダルをちょっと触らせて



もらったような、中々日本人はアフリカというものを日常で意識する事は少ないと思うのですが、横浜はアフリカにも近いというところで次回また横浜で開催されて、このような交流がもっともっと深まればいいなと思っています。

また、他にないプロジェクトとして、公民連携による国際協力、Y-PORTという事業をやっています。PORTは港町という略称なんですけれども、実は横浜は街づくりを非常に工夫してきた場所なのです。例えば「関内」「関外」「みなとみらい」もそうですし、あるいは港北ニュータウンもそうですし、二俣川の駅の開発なんかもそうだと思うんですが、そういう意味でさまざまな街の開発があります。それからもう一つは例えばこれはゴミのリサイクル会社とか、あとは汚泥。最近あまりないです浄化槽からくみ取る有機物の塊。そのような物をうまく処理するような会社などがあります。例えばフィリピンのセブなんかでも、浄化槽から受けた汚泥をそのままこのゴミ捨て場に捨てちゃうわけですね、そうするとメタンも出るし温暖化の問題もある、衛生上も非常に汚い、どこにも投棄できないような汚泥をそのまま川に流しているのので川が非常に汚い、ということで技術協力をしているのです。これまでは、日本がどちらかというリッチだった時には技術協力を提供しようということ、ある意味、援助というフレームの中でやっていましたが、今後は新しいキャッシュフローの仕組み、マイクロプラスチックなんかも出てきます。このようなことをやはり民間ベースでも開発して、生業として進めていく。一方的に援助ということで、例えば国際協力機構 JICA などの金を使って進めると

ということだけでは行かないということ、公民連携ということ、これまでどちらかという行政、役所が主体となって援助をしていたのを、今後は民間の英知も導入しながら解決策と一緒に作っていけないかということで、今一体となっているいろいろな企業、あるいはその人たちがグループを作って Yokohama Urban Solution Alliance (YUSA) というような社団法人を作ってく

れているので、一緒に新しい街づくりを考えるということ海外で展開しています。

このような事は、例えばゴミ問題とか水の問題とか都市整備ということで、局名で言ってしまうと、例えば資源循環局・環境創造局・水道局・都市整備局なんですけども、彼らが個別に援助ということは恐らくしないということで、国際局というのは全体をまとめて、先ほど言ったような国際機関、例えば世界銀行・アジア開発銀行あるいは JICA という所と結んで海外の手伝いをするというのを、特にフィリピン、あとはベトナム・タイなど東南アジアなどでやっております。

今日は実際に現場にこうやってロータリークラブに呼んで頂いてお話が出来るような状況になってきましたけれども、最近ではそのようなことをしに海外に行く、コロナでこれも中々出来ないで、パシフィコにあります国際協力センターにそのような情報発信拠点、これを私共ギャレリオと名付けたんですが、これは以前万国共通語でエスペラント語というのを作ろうという運動があったというのを記憶ありますか？最近あまり聞かないですよ。私も随分習ったんですけども、それでエスペラント、私の局のスタッフが引き出しまして、エスペラント語でギャラリー集まるという意味がそうです。もしインターコンチネンタルホテルに来られましたら、ちょっと寄って頂きましたら必ずスタッフが居ますので、そこで取組などを見ていただくとうれしいなと思います。

もう一つは先ほど言ったように4か所事務所がありまして、上海・フランクフルト・ムンバイ・ニューヨークにあります。例えば私共姉妹都

主な実績～公民連携による国際協力（Y-PORT事業）～

本市の都市づくりの知見と企業の技術・ノウハウを活用した公民連携による国際技術協力
 事業目的 ①新興国の都市課題の解決を通じたSDGs達成への貢献 ②市内企業の海外インフラビジネス展開の支援

- 事業実績
- 市内企業による海外インフラビジネス16件（受注額推計113億円）の事業化を支援し、海外都市の都市課題解決に貢献（事業化に向けた調査・実証事業段階では68件（総額推計30億円）を支援）※R2年度未現在
 - 一般社団法人Yokohama Urban Solution Alliance (YUSA) ※と、海外の複合開発・スマートシティ事業に計画段階から参画して、当地のSDGs達成や脱炭素社会形成に貢献 ※市内中小企業を中心に設立。R3年度8月現在、40社が加入

ごみの資源化のための制度と技術の導入支援（フィリピン・セブ）

下水処理のための制度と技術の導入支援（フィリピン・セブ）

街づくりのノウハウと企業群の技術のパッケージ化（タイ・東部経済回廊）

市もたくさんございますが、サンディエゴを初め、多くの都市と姉妹都市関係を結んでおまして、最近は姉妹都市というのは止めて、というのは姉妹になっちゃうと中々上手くいかなくても、交流がなくなってもずっと姉妹なんですね。なので余りそういう関係も好くないということで、最近はどちらかというターゲットを決めて、あと時限を切って協力関係をやってみることで、パートナー都市というのを、最近は特にアジアそれからフランクフルトこれは事務所がありますが、そういうことパートナー都市を結んでいるところです。このような都市との関係もまだまだ深いですし、私も国際局長になって、最近はオデッサやウクライナという国のことを非常に勉強しているようになりまして、来週ウクライナの大使と市長が表敬に来て、今後の連携をどうするかと話す機会も生まれています。

これまでの交流というよりは、もしかするとこれは日本の経済的な地位が低下してきたということも一因かと思うのですが、どちらかというと海外での企業誘致、あるいは企業同士の結び付きをお手伝いするというようなことに、少し軸は移ってきているかもしれません。一方でどうしてもこれは欠かせないなと思うのが、もっともっと横浜から出て欲しい。若い人達があまり海外に行かなくなったと言います。インターネットとか4Kテレビとかも見ると行った気分にもなっちゃう、他にも楽しいことがあるのかもしれない。だけどやはり実際に海外へ行ってみて、そういう方々と交わってみると、世界はこんなに広いんだ、面白いなという機会は多いと思います。ですのでロータリークラブ

の方々と一緒にお仕事もさせていただければいいなと思うんですが、このような次世代のグローバル人材育成のための繋がりを、特に姉妹都市とか海外事務所ということを通じてやっていきたいなども考えています。

もう一つはコロナのお話ですけども、上海から実はマスクを沢山頂きました。それはもう中国がちょっと治まって、丁度日本が上がってくる時457万枚頂いたんですが、この時は特に病院で本当にマスクがないタイミングがありまして、一時期の問題でございましてけれども大変助かったというようなこともやっています。

またアジア・スマートシティということでのこのような国際会議も開きました。丁度先月の末に終わったところで、本市が主催するのは国際会議なども私もアプローチして、横浜ということがいろいろなことを考えながら、人と様々な国と関わっているなということも、きちんとプロデュースするようなことも横浜市として国際局でやっています。

その結果としていろいろな賞をもらうので、賞貰うこと自体目的ではないのですが、やはり横浜というのはそういうキャラクターを持った街だよなということも、きちんと作っていきたいと思っていて、どちらかという温暖化

まではいきませんが、環境に配慮した先進的な街であるということも重要です。

もう一つだけ今日はご紹介したいのですが、1987年に皆さんよくご存じの事だと思いますけれども、ピースメッセンジャー都市という称号を国連事務総長からいただきまして、そういう意味で世界平和、これも簡単に言うてできるようなものでございましてけれども、世界が平和であるようにということで発信していきたいというふうに考えています。

あと私どもの取り組みを公的に発信するものとして、国際戦略を作っておりまして、私が駆け足でお話したような取り組みを進めているよということも公式にもお伝えしておりますので、さらに国際戦略で横浜はどういう事をやっているんだと興味を持っていただきましたら、ダウンロードしていただいてご覧いただければと思います。

これは私が今申し上げたような多文化共生、国際連携そして都市間の交流、それから技術協力を進めて様々な事業をしているところをまとめているところでございます。

■次週の卓話

12月1日 年次総会

「疫病予防と治療フォーラム」 福村会員

2021年度10月出席率一覧表

員数	会 員 名	ホームクラブ	他クラブ	出席率	員数	会 員 名	ホームクラブ	他クラブ	出席率
1	安 藤 公 一	100	0	100	14	岡 田 隆	100	0	100
2	福 村 正	50	0	50	15	太 田 勝 典	－出席規定免除－		
3	五十嵐 正	100	0	100	16	佐 藤 真 吾	100	0	100
4	兵 藤 哲 夫	－出席規定免除－			17	佐 藤 利 明	－出席規定免除－		
5	市 川 慎 二	100	50	150	18	関 口 友 宏	100	0	100
6	平 子 智 章	100	0	100	19	宋 謹 衣	0	100	100
7	北 澤 正 浩	100	100	200	20	田 川 富 男	100	0	100
8	増 田 嘉 一 郎	100	0	100	21	吉 原 則 光	－出席規定免除－		
9	目 黒 恵 一	－休会扱い－			22	内 田 敏	－出席規定免除－		
10	中 谷 逸 希	50	0	50	23				
11	新 川 尚	50	50	100	24				
12	二 宮 登	100	0	100	25				
13	二 宮 麻 理 子	100	50	150	26				
例 会 日		6 日		20日		平均			
例会出席率		$\frac{16}{21}$	76.19%	$\frac{20}{22}$	90.91%				
修正出席率		$\frac{19}{21}$	90.48%	$\frac{22}{22}$	100%				95.24%